

体力向上推進事業



DATA

● 主な連携先・メンバー

堺市教育委員会 学校教育部
生徒指導課

● 活動地域

堺市の小・中学校

● 活動資金

堺市と関西大学との地域連携事業

活動の目的

- 1 | 堺市の児童生徒の体力向上を目的とした研究を行う
- 2 | 学部学生を体力向上サポーターとして派遣することで指導者としての能力を向上させる

連携にいたる経緯

全国的に体力低下が小中学校の課題になっている中、2013年に堺市から児童生徒の体力向上のための研究と実践をしてほしいという依頼があった。そこで、単なる体力向上ではなく、それに伴う、子どもたちの業間での外遊びの推進や体育の授業の改善を通して、運動が好きになる状況をつくり、その効果を研究することとなった。

活動内容

児童生徒が主体的に運動に取り組む態度を養うために、研究校5校（小学校4校、中学校1校）を設定し、人間健康学部の学生を体力向上サポーターとして派遣し、実践研究を行った。また、体力向上検討委員会（各学校の校長と体育主任、教育委員会担当職員、指導助言者）を開催し、研究校における実践研究の効果検証を行った。さらに、スーパーバイザーとして人間健康学部教授杉本厚夫が各研究校を訪問し、指導助言を行った。

その他、教員を対象とした研究発表会や研修会を開催したり、児童の運動習慣の確立及び体力向上を図ることを目的に、堺キャンパス体育館で小学3・4年生を対象に堺スポーツランキング（縄跳び大会等）の交流大会を開催し、その中で、学部学生のサークル等が模範演技を披露する場を設けたりした。



活動の成果

- 1 | 児童生徒の日常の運動量が増え、確実な体力向上が見られた
- 2 | 小中学校における運動が好きになる体育の授業の改善が図られた
- 3 | 体力向上サポーターの学生が教員採用試験に合格したり、教員志望の意識が高まった

今後の課題・目標

- 1 | 研究校での実践を堺市全体での取り組みに広げていくことが課題である
- 2 | 体力サポーターの確保と学校での授業等への効果的な関わり方を検討する必要がある

● 教員紹介



人間健康学部 教授 杉本 厚夫(すぎもと あつお)

スポーツ教育学を研究し、学校体育における「楽しい体育」の実践について、論文等を執筆している。